

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース



発行 第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区 夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

インドとパキスタンの核実験

服部 学

インドとパキスタンが相次いで核実験を行った。NPT(核兵器不拡散条約、一九六八年七月調印、一九九六年五月無期限延長)では第九条で、「核兵器国」とは「一九六七年一月一日前に核兵器その他の核爆発装置を製造し、かつ爆発させた国をいう」として米・ロ・英・仏・中の五カ国だけに特権(?)を認めている。つまりこの五カ国はいくら核兵器を開発し生産しても良い(垂直拡散)が、非核兵器国は核兵器の受領、製造、取得をせず、援助を受けないこと(水平拡散の禁止)を約束している。もっともインドもパキスタンもこの条約には加盟していないから違反にはならないのだそうである。実はインドは既に一九七四年五月に、平和目的と称して地下核爆発実験を行っている。しかし核爆発の技術に平和目的と軍事目的の両方があるわけはない。

印・パ両国の相次ぐ核実験でNPT体制は事実上崩壊してしまった。あい

つらがやるなら俺たちだってという人たちが多くなるかもしれない。差し当たって中東諸国や北朝鮮等の諸国への核拡散が心配されている。アメリカが支持するイスラエルは事実上の核兵器国であると言われている。他にもいくつかの国がある程度の能力はもっているらしい。

インドは一九九六年九月に国連で採択されたCTBT(包括的核実験禁止条約)にも公然と反対してきた。その理由は核廃絶の期限がはっきりしていないということである。理由だけならばいかにも尤もである。この条約は発効するのにすべての核兵器国やいくつかの核疑惑国その他四カ国の批准を必要としているからまだ成立していない。パキスタンもインドが加わらなければ入らないと言っている。

両国とも一回の核実験でほとんど同時に何回もの核爆発をやっているのは、回数が増やすと他の国からの非難や圧力が高まることばかりでなく、地下に

市民が世の中を変えていく時代に 葛西なおみ

私は東京江東区の豊洲に住んでいて、第五福竜丸のある夢の島へは自転車です。15分ほどです。しかし今までこの船について詳しく知る機会も興味もありませんでした。今回、生協の組合員活動で、見学と資料作成のための取材に伺った時に、初めて船の辿ってきた歴史や、被ばくした人たちのこと、船の保存運動に関わった人たちのこと、水爆、死の灰の怖さなどい

白い灰をあびた船

1 昔昔 まぐろを獲りに 出かけた 一隻の船
南の海で 見たものは 白い灰の雨
大きな船が 行なった 水爆実験のため
巻き上げられた 珊瑚のかけら 放射能の白い灰

誰のために 何のために 核爆弾をつくる
何も知らない 弱いもの達が 真っ先に殺される
降り続いた白い灰の雨は 船や近くの島の
人や海や空の命を 静かにむしばみ始めた

2 それからだいぶ 時が流れて 船も古くなって
役に立たなくなると言われ ごみにされ捨てられた
東京湾のヘドロの中に 沈みかけていたとき
新聞社に舞い込んだ 一通の投書

水爆実験の被害にあった 放射能の灰を浴びた

いろいろ勉強させてもらいました。こんな身近に、こんなにすごいものがあつたなんて! 私にとって驚きはとて大きく、この気持ち

詞・曲 葛西なおみ

歴史の証人 大切な船を このまま捨てていいのか
一人の声が人々の記憶を呼び覚まし
船を守り平和を守る 運動に広がった

3 船は海から引き揚げられて 夢の島の公園に
今では静かに保存されている 当時の記録と共に

今も世界のどこかで起こる 人々の争いや
一方的に自然を壊す 愚かな行いを
船は黙って見詰め続ける 訪れる者たちに
無言の声を送り続ける 命の尊さを

誰のために 何のために 核爆弾をつくる
何も知らない 弱いもの達が 真っ先に殺される
力を合わせ守った船は 私たちの羅針盤

平和を守る心の燈を ともし続けるための

忘れ去ってしまったっていいでしょう。大切に保存し大人の人たちに核実験の恐ろしさについて学んでもらうようにしてください。

●五月二十六日来館した三重県上野市桃青中学校三年生の事前学習の感想文「クラス英語通信」より

▽:被害を受けた人は第五福竜丸に乗っていた人だけじゃなくて他の国の人たち大勢が被爆している。日本だけの問題じゃなく世界の問題だから、大切にこの事件を考えていきたい。まだ実験をしているなんて許せない。

▽核実験は絶対になくさなければならぬと思った。人間どころか全ての生物に害を与えることを核実験やしている国に、今すぐにも伝えなければならぬと思う。

▽:いま、インドが核実験をするなど世界では核を持っていく国がある。もう作ってしまったらどうしようもないけど、もっと真剣に考えてこれ以上核実験をしたり作ったりしないでほしいです。これは地球全体の問題です。核で人類は滅んでしまふんじゃないかと思



第五福竜丸の訴えに耳をかたむける修学旅行の中学生

●五月二十一日来館した三重県名張市桔梗が丘中学校三年生が船の

これは地球全体の問題、核で人類は滅んでしまっんじゃないかー来館者の声から
五月、展示館には二万七千名余の人々が訪れた。一六四の団体見学のうち、修学旅行で訪れた中学校は九七校に及んだ。事前の学習を重ね、文集を作り、折り鶴の束を携え、いくつかの学校は船を前に、生徒自身が主催する「平和集会」を持ち、「平和宣言」を読み上げた。館いっばいに拡がって四部合唱を船に聴かせた学校もあった。インド、パキスタンの核実験に対する意思表示はことのほか多く、作文・感想文・寄せ書きも寄せられた。展示館では、第五福竜丸は人類の未来を啓示したこと、人類絶滅の危機、人類の生存という根源的な問題を提起したこと、いま、「人類を忘れるな、他のすべてを忘れよ、人間として人間に訴える」としたラッセル・アインシュタイン宣言を想起してほしいと訴えた。

前を読んだ「平和宣言」

私たち、桔梗が丘中学校三年生は、第五福竜丸が巻き込まれた水爆実験による悲しいできごとを人々に伝えていかななくてはならないと思ひ、この展示館を訪れました。そして、今日やこれからのために一生懸命勉強し、いろいろな意見を出し合いました。核兵器のおそろしさや戦争の悲惨さ、二度と戦争をおこしてはならないこと、平和の大切さなどを。
第五福竜丸の被害者の方が原爆症の傷で苦しんでいるのはもちろん、家族の方も心に大きな傷を背負い、すぐく苦しめられているこ

とを知りました。結局この水爆実験で得たものは、人々の言葉にできないほどの大きな怒りと深い悲しみでした。
私たちがこうした学習をしている中でインドが二度も核実験を行ないました。何のための核実験なのか、世界がめざしている平和とは反対の方向に向かっていくように疑問が膨らんでいきます。唯一の被爆国である日本の私たちが核兵器をなくしていかなくてはなりません。ここで見学したことを忘れず、平和な未来を創っていくことを誓います。
●五月二十八日来館、「ノーモアHIBAKUSHA」の平和宣言を行った和歌山市西和中学校三年生が贈った「寄せ書き」から
▲西川慧子さんのメッセージ▼
私は水爆実験でなくなってしまう久保山さんの「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を世界の人々は心に残しておかなければならないと思います。もし久保山さんが生きていたら、この実験の反対運動を一番にして、みんなにわかってもらおうとした

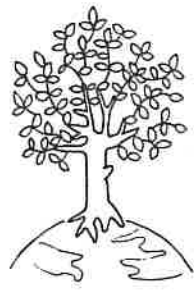
大きくしてしまつた。ラッセル・アインシュタイン宣言は決議の最後に「あるゆる紛争問題の解決のための平和的な手段をみいだし」ことを勧告している。核兵器には頼らないでほしい。
戦後五十年以上、幸にして戦争のために核兵器が使われないですんだのは、決して核抑止力が働いたからではなく、世界の運動、良心がこれを使わせなかったのである。両国の核実験は少なくとも日本の人々の核兵器に関する関心を高めた筈である。核実験だけに反対するのでは問題は解決しない。私たちはこれを契機に、ますます核廃絶の運動を強めていかなければならない。既に大量の核兵器を保持している核兵器国に対し、もっとも強い核兵器廃絶の声を挙げていかなければと思う。
(立教大学名誉教授・協会理事)

われる。パキスタンはプルトニウムの量は少ないようだが中国の援助で濃縮ウランを作る技術があるらしい。濃縮ウランは水爆には不向きだと言われてきたが私は不可能だとは思わない。これまでの核兵器国は何れも短年月で原爆から水爆に進んでいる。
核兵器は既に五〇年以上も前の兵器である。性能を別にすれば、ある程度の工業能力を持った国ならば、その気になりさえすれば核兵器を作りうる。このままでは新しい核兵器国が生まれうる。

五核兵器国の外相会議は印パ両国を核兵器国とは見なさないという声明を出したり、国連安保理事事会では両国を非難して核不拡散決議を採択したりしている。新たな核実験をさせないというのは結構だが、これだけでは世界の核兵器は無くならない。核兵器国の虫が良すぎるといふべきであろう。SALT(核兵器削減条約)以来、世界の核兵器の総数は確かに減ってはいる。しかしまだ全世界に二万発を超える核兵器が配備されているのは紛れもない事実である。アメリカはその約半分、強大な核戦力を維持している。これで世界

の戦争を抑止しているのだと称している。そして日本はその核の傘に頼っている。
核兵器を廃絶するには核抑止という考え方を捨てなければならぬ。湯川秀樹先生は常々「核抑止」という考え方はそもそも間違っている。核兵器が存在するから核戦争の可能性が生まれてくる。核戦争を無くすには核兵器を無くす以外にはない」と語っておられた。正にその通りである。私達が願っているのは核不拡散だけではない。目標はあくまでも核廃絶である。
私たちが第五福竜丸を守り続けるようとするのは、これが世界最初の実用水爆の核実験に遭遇した生き証人であるからに他ならない。ビキニ事件を契機として世界は核軍拡競争のスピードを一段と加速し、人類は絶滅の道を歩み始めた。一九五五年七月に発表されたラッセル・アインシュタイン宣言にも示されているように、核兵器は単に大都市を抹殺するだけではなく人類に終末をもたらすものである。私たちは第五福竜丸保存の運動を拡げて行くことによって人類の存続を守りたいのである。久保山さんが「原水爆の犠牲者は私を最後

にしてほしい」と言われたというのが今更のように思ひ出される。インドの人民党が核兵器製造をその公約に掲げ、国民がそれを支持してしまつたこと、今度の核実験でこれにかかわつた科学者を始めとして少なからぬ人たちが大喜びしていることを聞いて、私たちはほんとうに残念に思う。パキスタンの首相も日本が核兵器を持つていれば広島・長崎の攻撃は無かつただろう等と語っている。私はそうは思わない。日本の軍部が核兵器を持つていれば世界はもっともつと酷いことになっていただろうと思う。しかし新聞等の報道によれば、インドでもパキスタンでも、まだ少数ではあるが科学者や市民が反対の声を挙げ始めたことである。この人たちの良心を信じたい。
私はもちろん両国の核実験には反対である。しかし両国が何故こんな実験をやつてしまつたのだろうか。核兵器国の仲間入りをすれば紛争が解決すると本当に思つたのだろうか。印・パ両国の核実験は、決してこの二国の対立関係を改善はしなかつた。それどころか核兵器が実際に使われる可能性を



としたいと思います。第五福竜丸とともに反対運動をしたかと思ひます。久保山さんの言葉を心に残してこの地球を平和にしていかなければと思ひました。
▲妙中悠介さんのメッセージ▼
学校で事前学習で思つたことはこれからは真剣に世界中から核を廃止しなければならぬということです。このままもし核実験が行われ続けたら、人や動物が死ぬだけじゃなく、地球まで核で汚染されると思ひます。第五福竜丸の久保山さんや乗組員の被爆をアメリカが認めないのも疑問をもつし、最近ではフランスの核実験があり、ついこの間もインドで核実験があったのには、僕自身本心に心のなかで激怒したい気分でした。戦争さえしなければ核兵器なんて必要ないと思ひます。
▲杉浦さんのメッセージ▼
第五福竜丸の事件は僕たちにとつてとても大切でしかも忘れてはならないものだということを学びました。もし第五福竜丸が捨てられたままだつたら、僕たちはいまこうして核実験のことについて考えることはなかつたと思ひ、大部分の人が(四めん下段へつづく)